

## <鎌倉市：コミュニティバスの運行>

施策名	コミュニティバスの運行
<b>取り組みの背景</b> 地域の交通環境問題 行政・市民ニーズ 交通基盤シース など	背景 1：バス交通は、モータリゼーションの進展により、その存在意義が相対的に低下し、また、自動車交通の増加による交通渋滞によって定時性が損なわれ、身近な移動手段としての機能を十分に発揮できていない現状にある。 背景 2：交通不便地域の解消を図り、「市民の足」を確保するとともに、誰でも利用しやすいバス交通を推進する。 背景 3：市内の地形的特徴、道路の幅員や線形、既存バスネットワーク等を考慮して「小型・低床・低公害」のコミュニティバス又は乗合タクシーの導入を検討していく。さらに道路幅員等道路改良や交差点改良についても検討していく。
<b>目的・ねらい</b> 目的・ねらい 対象交通 など	目的・ねらい： <ul style="list-style-type: none"> <li>交通不便地域の解消を図り、「市民の足」を確保する。</li> <li>高齢者等移動制約のある方たちに外出機会の増加を促し、生活の利便性向上と社会参加を支援し、地域社会の活性化を支援する。</li> <li>自動車利用者からバス利用者への転換を促し、自動車交通量の削減によるバスの走行環境の改善を図る。</li> <li>既存バス路線を勘案し、バスネットワークの適正化を図る。</li> <li>地域の人々の交流を活性化し、地域のコミュニティの形成を育む。</li> </ul> 対象交通：マイカーからバス等公共交通への転換
<b>取り組みの経緯</b> 経緯・熟度 など	平成 10 年 3 月、鎌倉市バス交通体系整備調査を実施する。 平成 10 年 5 月、市民・学識経験者・事業者及び行政機関による「鎌倉市オムニバスタウン計画策定協議会」を設置し、約 9 ヶ月の検討を経て、「鎌倉市オムニバスタウン計画」(案)を作成し、その後同計画を策定する。 コミュニティバスの運行は、同計画の「鎌倉型バスシステムの創造」として位置付けられている。 平成 12 年 3 月、オムニバスタウンの指定を受け、鎌倉市オムニバスタウン計画に基づき各施策の推進を図る。 鎌倉市オムニバスタウン計画は、短期(平成 11 年度～15 年度)、中期(平成 16 年度～20 年度)、長期(平成 21 年度以降)計画から構成されている。
<b>主体・広報・費用</b> 実施主体 検討組織 広報スケジュール 費用負担 など	実施主体：バス事業者(江ノ島電鉄株・京浜急行電鉄株・神奈川中央交通株) 検討組織：鎌倉市オムニバスタウン計画策定協議会(平成 11 年 3 月解散) 広報：市広報や地元新聞等の取材する記事として掲載。 費用負担：路線運用のための費用は、全て事業者が負担。車両、車載機、バス停設置に関わる費用等初期投資については、自動車事故対策費補助金交付要綱に基づき、国・市の協調補助。

<b>実施概要</b>	対象地域：鎌倉市内
対象地域 実施日時 施策内容 など	実施日時、施策内容：コミュニティバス7路線 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大船駅桔梗山線（平成7年10月16日～）</li> <li>・ 七里ガ浜循環線（平成9年10月6日～）</li> <li>・ 鎌倉駅西口線：2系統（平成12年3月16日～）</li> <li>・ 新鎌倉循環線（平成13年3月19日～）</li> <li>・ 新鎌倉山循環線（平成13年3月19日～）</li> <li>・ 小動線（平成13年3月19日～）</li> <li>・ 由比ガ浜地下駐車場八幡宮線（平成13年12月1日～）</li> </ul>
<b>効果測定内容</b>	効果測定内容：
測定内容 効果把握 など	効果把握結果：
<b>取組上の課題</b>	課題1：地域住民への説明、試験走行等によりミニバス路線の導入を進める
合意形成 費用負担 など	<p>中、賛成・反対者により自治町内会が分裂した例もある。バス路線、バス停設置等の確定については、地域住民との話し合いを慎重に進める必要がある。</p> <p>課題2：市民ニーズや市の考える路線が、事業者の考える採算路線とは限らない。</p> <p>課題3：ミニバス路線を新設することも必要だが、既存路線の再検討(利用者ニーズに対応し利用客を増加させる対応)も必要となる。</p>
<b>その他特記事項</b>	
今後の方向性 地域指定 等	

以上

都道府県市名 : 神奈川県鎌倉市  
 担当部局名 : 緑政都市部 交通政策課